

# 現代芸術論

選 択

開講年次：2 年次前期

科目区分：講 義

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：現代芸術の基本理念とその特徴を、時代背景や地域特性とともに概説する。モダンアート、ダダイズム、シュルレアリスム、抽象表現主義、ポップアート、ミニマルアート、アースワーク、コンセプチュアルアート、ポストモダニズム等について、代表的な作家の作品を紹介しながら、歴史的・地域的特徴について概観する。

■**到達目標**：①20世紀初頭から現在までの現代芸術が系譜を通して理解することができる。②現代芸術の理解を深めることによって、デザインの専門性を拡充することができる。③表現の自由を尊重し、発想の転換や創造の概念を学ぶ。

■**担当教員**：

上遠野 敏

■**授業計画・内容**：

第 1 回	現代美術概説：モダンアートから現代までの流れ1	アート関連：シュートフィルム紹介 1
第 2 回	現代美術概説：モダンアートから現代までの流れ2	// 2
第 3 回	芸術の転覆1：マルセル・デュシャンの反芸術的たぶらかし	// 3
第 4 回	芸術の転覆2：ダダイズム、シュルレアリスム	// 4
第 5 回	脱イリュージョン：抽象表現主義、アンフォルメル、具体美術	// 5
第 6 回	大衆文化の夜明け1：ネオダダ、ポップアート、 フォトリアリズム、オブアート	// 6
第 7 回	大衆文化の夜明け2：プリティツシュポップ、 ヌーボレアリスム、ネオダダ・オルガナイザーズほか	// 7
第 8 回	概念の構築：ミニマルアート、 プライマリー・ストラクチャー、コンセプチュアルアート	// 8
第 9 回	物の言葉を聴く1：アースワーク	// 9
第10回	物の言葉を聴く2：アルテポーベラ、もの派	// 10
第11回	ポストモダニズム1：ニューペインティング	// 11
第12回	ポストモダニズム2：1980年代の美術・ アートメディアとしての写真、ニュースカルプチャーなど	// 12
第13回	多様化する表現：1990年代の美術・シュミュレーションほか	// 13
第14回	物質と非物質の行方：現在の美術	// 14
第15回	映像アートの検証	

■**教科書**：作成資料を適宜配布する。

■**参考文献**：授業ごとに適宜指示をする。

■**成績評価基準と方法**：授業毎の感想やレポートなどにより総合的に評価する（出席30%、感想20%、レポート50%）

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合(%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
小テスト・ 授業内レポート					
授業態度	○	○	○	毎回の授業感想の内容	20
発表					
課題・作品	◎		○	課題レポートの内容	50
出席	○	○	○	2/3以上の出席が必要 出席回数×2点	30
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：メディアデザインコースのアート関連授業、アートマネジメント、学芸員科目と関連

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：豊富な作品スライドや映像で現代美術をわかり易く解説し、アートやデザインの発想力を養います。